


栄養・子ども学部 子ども教育学科
特任講師 平岡 正実 HIRAOKA Masami
専門・活動分野 国語科教育学、教育方法学
最新の研究内容
テーマ：ICT教材の効果的な活用と主体的・対話的で深い学び
研究/活動紹介
背景

現行の学習指導要領が告示され6年（小学校）が経過しました。学校現場では、「主体的・対話的で深い学び」の様々な実践が展開されています。真に「主体的・対話的で深い学び」の実現のために国語科教員は、「言語活動を通して、伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ための授業改善を図っており、ICT教材の効果的な活用の必要性にも迫られています。

目的

県内の県立高等学校と公立小学校の国語の授業分析を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、具体的なICT教材の有効性と課題を考察すること。

成果と展望

- ①県立高校の実践では、教科書の本文の学習後、課題についてICT教材（タブレット）のアプリを使い、自分の考えをまとめ、グループで相互評価していました。教師から「根拠を明らかにして文章を論じなさい」という支援を受け、教科書、各種資料、インターネットで複数検索するなど生徒が古文に対し、主体的・対話的な鑑賞態度を育てていました。
- ②E市公立小学校では、ipadを導入し「デジタル教科書」やインターネットの検索機能を使用しています。デジタル教科書では文章や挿絵の拡大など、児童の自主的な学びにつなげていました。また「メタモジ」というアプリを入れ、シートに各児童の意見を書き、一堂にスライドに表示しています。児童相互の意見の共通点や違いが明確になり、問題が整理されて児童の主体的・対話的で深い学びとなっていました。

国語科でのICT機器の活用は、授業で「つけたい力」のためどんな活用が有効か、またノート指導との関連など事前の教材研究がますます重要になっていることが各校での実践から言えます。

<高等学校1年 古典の指導案>

	<15分>		せる。
	・作者が「女性仮託」した理由について論じる。	・これまでの学習内容を関連付けながら、考えを論じる。 ・読者の立場から作品を完成し、提出させる。	・書き方に留意させる。 ・本文の内容や【資料】を関連させながら、総合的に論じることができるよう考えさせる。
	<28分>		
まとめ 5分	・本時の内容を振り返る。	・次時は生徒相互で作品を読み比べることを確認する。	・次時に向けて自分の作品の改善点はないか、考えさせておく。

7 ご高評

<小学校1年 説明文の授業>


ipadで教科書挿絵の拡大図を見ている

産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- ・県内の小・中・高等学校の国語の授業実践の現状と課題を探りながら、次期学習指導要領へのスムーズな移行のための問題点を整理します。
- ・小・中・高等学校の国語科の授業研究の成果と課題を共有し、授業改善の糸口を探ります。

学会・経歴

- ・日本国語教育学会
- ・元小・中・高等学校教員（国語科）

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp